



Mitsui V-Net

Mitsui Volunteer Network Center

三井ボランティアネットワーク事業団

ニュースレター Vol.60

2018年7月1日発行

留学生数拡大の中での連携の意義

横浜国立大学 国際戦略推進機構 企画推進部門長
教授 梶島洋美

平素より三井V-Netの皆様には、数多くの留学生がお世話になり、心より感謝申し上げます。

横浜国立大学の留学生数は平成29年11月1日の統計で1000人（総学生数の約1割）を超えました。これは、日本政府が2008年から2020年までの数値目標として掲げている「留学生30万人計画」と連動するものでもあります。グローバルな市場競争の下、海外の大学院で付加価値をつけようとする近隣諸国の若者たちが、比較的学費の安い日本に押し寄せてきている結果でもあります。しかしながら、ただ単に留学生数を増やしても、それに伴う質の担保がされていなければ何の意味もありません。

本学は、留学生の教育環境に関わる賞である日本留学AWARDS（一般財団法人日本語教育振興協会「日本語学校教育研究大会」主催）において、平成26年より東日本地区国公立大学部門で連続入賞を果たし、平成29年には初めて大賞を受賞しました。これは「留学生に勧めたい進学先」について、全国の日本語学校の教職員の皆様の投票により選ばれたものです。

本学では、第3期中期目標（平成28～33年度）において、「国内外の優秀な学生を集め、国際レベルの実践的で高度な教育を行うことで、グローバル社会で活躍する実践的人材の輩出を目指す」ことを掲げており、これらの受賞を励みに、優秀な留学生にレベルの高い教育を引き続き行っていく所存です。

しかし、大学や大学院での授業や研究が充実していたとしても、日本人社会との接点が少なければ留学の意味も半減します。私自身、3度海外経験をしています



が、現地の人々と交流をし、肌身で現地の文化、歴史、考え方を知る機会があったからこそ、今の自分があるのだと思っています。その意味で、一対一交流で三井V-Netの皆様が心温まる関係を築いてくださっているのはありがたいことです。

平成29年11月以降のデータによれば、本学の留学生のうち72名が一対一交流の恩恵を被っています。会員様の中には、お一人で複数の留学生をお世話くださる方もいらっしゃるようで、本当に頭が下がります。また昨年度、日本の歴史や文化、経済などに関わる多様な行事を14回も企画していただきました。われわれ教員は、日々授業などを通して留学生と関わりますが、自分の研究室に所属する留学生であっても授業や研究以外で接する時間は限られており、一学期に1～2回、日本人学生らとともに食事会をするのが精一杯の状態です。

文部科学省は、成長戦略における外国人材の我が国企業への就職の拡大をめざし、平成29年度に「留学生就職促進プログラム」の公募を行いました（注）。これは、留学生が大学や大学院を卒業後も日本に定着することを促すものです。年々深刻になる超高齢社会対策としてだけでなく、持続可能な日本経済への転換においても、日本社会に理解のある外国人留学生の存在を官民ともに注目しており、大学と地域社会の連携が今後ますます重要になってくると思われます。今後とも、三井V-Netの皆様には海外とつながりで歴史のある横浜の地で、留学生との交流にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

（注）本学と横浜市立大学は同プログラムに応募して採択されました。本事業では、神奈川県、横浜市および各経済団体、国際交流団体等と連携し、日本語教育、キャリア教育、インターンシップ等を拡充していく計画です。

本部（東京）

JFEスチール東日本製鉄所 京浜地区（扇島 / 川崎）工場見学報告

横浜国大部会 佐々木隆雄（日本製鋼所 OB）



留学生と会員との集合写真

2017年12月26日（火）、横国大冬季休業／年々年初休の初日、幸い天候は朝から晴れ、12:15迄にはJR川崎駅構内時計塔の前に留学生18名、部会員16名計34名が集合（留学生の登録は22名でしたが4名は都合で不参加）駅近くの送迎バスの駐車場まで歩きJFEスチール用意のバスにて扇島にある工場迄案内してもらうことから工場見学がスタートしました。鉄鉱石を原料に最終製品の鋼材までを一貫して行う大手鉄鋼メーカー（高炉メーカー）の工場見学は留学生ばかりでなく部会員にも関心を持ってもらえるだろうとの思いから、3年程前から考えていたことがようやく実施することができたというほっとした気持ちを何故かこの時点で感じ始めていました。

JFEスチールは、2002年に川崎製鉄（川鉄）と日本鋼管（NKK）が経営統合してJFEグループ（JFEホールディングス）が発足し翌2003年の事業再編で両者の鉄鋼部門が統合して発足したものです。手続上は川鉄が非鉄鋼部門を分離した後NKKの鉄鋼部門を継承して社名変更した形になっています。因みにNKKは川鉄のエンジニアリング部門を継承してJFEエンジニアリングに社名変更されています。JFEスチールの製造拠点は4ヶ所、そのうち東日本・西日本両製鉄所は高炉を構える「鉄鋼一貫製鉄所」と呼ばれる大規模な工場、東日本製鉄所は旧川鉄工場である千葉地区、旧NKK工場であった京浜地区と東京湾の東西に拠点があり今回はこの京浜地区の工場見学ができることとなったものです。見学して感じたことは大規模ということは当然ですが、人口密度の高い都市に立地していることから環境に配慮していることと、プラス

チックごみを炭化してコークスに混ぜる等の各種リサイクル設備も備えている近代的な工場ということでした。今回初めての見学でしたので以下に見学内容少し詳しく書きたいと思います。

私達は、工場構内にあるグループ訪問者の対応・応接場であるアメニティホールで13:30から30分程案内担当者による会社概要の説明を聞きビデオ／動画による工場設備、製造工程、製品である各種鋼材の機能等の予備知識を頭に入れてそして工場レイアウト図（原料受け入れから出荷まで一直線に配置されたレイアウト）を見ながら見学ルートを確認して2台のバスに分乗して工場敷地内への出発となりました。扇島エリアは550万平方メートル（東京ドーム約117個分）の広さがあるとのこと、扇島は本当に大きな人口島であることを実感できます。まずは原料岸壁へ、鉄の原料である鉄鉱石、石炭は殆どが輸入なのでこの日も中型船、大型船が係留されていて荷下ろし作業中（荷下ろし設備も完備）でした。原料ヤードを過ぎるとバス右手に原料処理設備である石炭を蒸し焼きにしてコークスにするコークス炉との鉄鉱石・コークス・石灰石を混ぜて焼き固めて焼結鉱にする焼結炉があり、左手に高炉2基（吐きだされている白煙から2号高炉稼働中）が見えます。高炉下部から銑鉄が次工程に運ぶ混銑車に取りこまれるのを見ると長い顔のちいさい・ちいさい口から赤く長い舌を出しているようなそんな感じが私にはしました。

次いで製鋼工場、銑鉄から加工しやすいように強い鋼に作り変える工場でここはバスを降りて工場内で実際の転炉を見学、鋼としての出鋼作業までにはまだ時間があるらしくビデオ画面にて転炉による精錬作業と出鋼作業の説明を受けました。そこから徒歩で熱間圧延工場（肉厚3mm以下の薄板圧延）へ、25mm厚さのスラブが加熱されて粗圧延ラインに投入され圧延機で肉厚6mmまで圧延され幅が広がっていくのを目の前で見るのは壮観です。残念ながら仕上げ圧延（ロールの組み合わせ）・冷却システム・コイル状に巻き取る設備は秘密になっているとのことで、詳細が分からないよう見学通路から見えないよう遮壁がありただ通り過ぎるだけとなりました。最後にラインからコイル状に巻かれた製品としての帯鋼（最小肉厚1.5mm）が流れてくるのを見て工場を後にしました。そこから再びバスで製品岸壁を通りアメニティホールに戻りました。時間はもう15:00、Q&Aの時間がなく見学参加者と工場案内していただいたガイド二人を含めた集合写真を慌ただしく撮りJFEスチール用意のバスで工場を後にしました。

春の富士山見学(大野山より富士を望む)

横浜国大部会 藤田芳規(登録会員)

横浜国大部会では、恒例になった春の「富士見登山(大野山)」を4月28日に実施しました。

当日は好天に恵まれて、留学生22名と部会員6名が富士山の眺めと新緑を楽しみました。



大野山頂上での集合写真

横浜から海老名、新松田と二度乗り換えて御殿場線谷峨駅着。松田・山北・谷峨と2両編成の列車には不釣り合いに長いホームに首をかしげる人もいましたが、これは昔の東海道本線だった名残です。

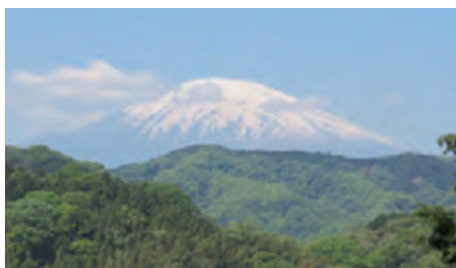
谷峨駅から吊り橋を渡ってひと上りしたところが最初の富士見ポイントです。新緑の山の向こうに残雪に輝く富士山が見えました。ほぼ快晴で、本当にきれいな富士山でした。カメラとスマホの出番でした。

「上り一方通行だな」という声の通り、なだらかながらも上り坂が続きますが、涼しい風が気持ちよく疲れを和らげてくれます、視界が開けると、次の富士見ポイント。富士山に少し雲がかかってきましたが、まだきれいです。

更に登って箱根の山が見えてくると霞んではいますが相模灘も見えてきます。ここから上はずーと富士山を見ながらの登山になります。

いつも何人かは先を急ぎたがります。「みんなが一緒に山頂に着くようにしようよ」と引き留めながら、12時過ぎにみんな一緒に山頂に着きました。

昼前からは富士山は頭を雲に隠されましたが、文字通り360度の展望です。



大野山登山途中から富士山を望む

大野山の山頂は広い芝生で休憩舎やトイレもあり、気持ちの良いひと時が過ごせます。

思い思いに昼食をとり、写真も沢山撮って、13時20分に名残を惜しみながら下りにかかりました。

ウラシマソウが咲き残っていました。「浦島太郎の釣り糸」と言うと、「お爺さんになった人ね」という反応。

今日の言葉は、「上り一方通行」と「浦島太郎」でした。

行程

横浜発8:00=相鉄・小田急・JR御殿場線=9:38谷峨着)

谷峨10:00~12:20大野山13:20~15:10谷峨

(谷峨発15:38=JR御殿場線・小田急・相鉄=17:26横浜着)

留学生たちから学んだこと

東大部会 塩見信太郎(三井住友海上OB)

学生時代語学が苦手であったのに、40歳を過ぎてから海外駐在を命じられた。苦労もあったが、異国の人々は公私を問わず助けてくれた。来日する外国人に少しでも恩返しをしたいと思い、3年前三井V-Netに登録したところ、これまで3人の貴重な友人を得ることができた。



筆者(左)と留学生の楊さん

最初の友人は、台湾から来た陳さんという甲骨文字の研究者だった。流暢な日本語を話すので「私と話す必要があるの」と聞いたところ、「同僚の日本人は皆中国語を話すので日本語をもっと話したい」とのことだった。孤立語である中国語が母語である彼にとって、膠着語である日本語の助詞や語形変化はやはり難しいらしく、会話を楽しみながら多少の手助けは出来たように思う。彼の悩みは帰国後の就職のことであった。三重大学の特任准教授の紹介があったが年度更改のうえ給料も安いのでどうしようかと相談され、「日本の大学で教員としての実績を積むべきではないか」と助言した。昨年末、台湾の名門私立大学に正式採用されたとのメールが届いたときは、我がことのようにうれしかった。

二人目の友人は、楊さんという台湾大学の大学院生

で、稲のゲノムについて研究していた。日本文化に興味があり、ご朱印帳をもって都内の寺社を回ることを楽しみにしていた。春には本郷から歩いて上野に行き、満開の桜を二人で堪能した。昨年6月に帰国した彼は今兵役に就いているはずであり、無事終えることを祈るばかりだ。

三人目の友人は黄（ファン）さんという韓国の延世大学の学生で、専攻は国際政治学だった。日韓関係がぎくしゃくしている昨今、政治問題を話題にするのは避けるべきと思ったが、レポートの日本語のチェックを頼まれるうちに自然に語り合うようになった。意外なことに、多くの韓国人が、戦後の日本外交はしたたかであり韓国は外交ベタであると思っているとのことだった。言われてみれば、日本は米国や中国に外交において振り回されてきたが、結果的になんとか実益を確保してきたことも事実である。譲歩しつつも対話により問題を解決していくことの重要性を、これからも日本は忘れてはいけなかった。2月に帰国した彼は、今頃は就職活動に頑張っているはずだ。

東大は東京国立博物館のキャンパスメンバーなので、留学生も無料で入れる。彼らと訪ねたところ皆喜んでくれた。その縁で、今年4月から同館のボランティアを始めた。常設展にはたくさんの外国人が来ているが、職員や日本人来館者はあまり話しかけない。ボランティアの一言が、日本文化に関心を持つ外国人に良い思い出を作ってもらえることになるのではないかと。そのためには、日本美術の勉強をし、それを簡単な英語で説明できなければならない。今年66歳になったが学ぶことに際限はない。その意欲を、3人の若い留学生の友人たちは与えてくれた。

東大柏部会「3月日帰りバスツアー」

東大柏部会 富岡茂樹（三井住友銀行OB）

去る3月10日土曜日、恒例のKIO主催による日帰りバスツアーが実施されました。

留学生とその家族で11か国33名、企画・運営でKIO事務局より2名、通訳を兼ねた東大の支援学生2名、そしてツアーの運営補助として当三井V-Netより2名の総勢39名が参加しました。

当日の天気は昨日まで続いた春の嵐で心配されましたが、幸運にも朝から快方に向かい午後には初春の温かい日差しが射すまでになりました。

一行は定刻に柏キャンパスを出発し、女性会員有志



笠間工芸の丘で全員の記念写真

による差し入れのお菓子を楽しみながら歓談、笠間市にある「笠間工芸の丘」に到着、陶器の絵付けを体験しました。

各人十分に個性を発揮して、様々な絵付けに腕を振るい、多くの傑作が生まれました。絵付けされた陶器は後日各人の手元に届く段取りがされています。

360度を見渡せる丘の上でそれぞれ昼食をとりながら歓談し、午後のイベントの偕楽園へと向かいました。

ほぼ満開の梅が春の青空を背に優雅に咲き誇っていました。

現地ボランティアガイドに引率され二手に、支援学生による的確な通訳を介しそれぞれ偕楽園の歴史的背景と梅林の散策を楽しみました。

振袖に着飾った梅大使、水戸黄門一行との記念写真と和気あいあいと歓談しながらの初春の午後でした。

現地を離れる前には、お土産物を探す留学生も多かったです。



ほぼ満開の梅を二手に分かれて見物

早めの出発が功を奏し、柏の葉キャンパスには渋滞に罹ることもなく、定刻よりも早く無事到着することができました。

日頃研究で忙しい留学生の皆さんですが、仲間との交流に、また日本文化の一端に触れる体験と、素晴らしい春の一日を楽しむことができたものと思います。

今後とも、微力ながら支援活動が続けられるよう願っております。

東大柏部会 留学生向け「書道教室」を開催

東大柏部会 鈴木雪生（三井住友海上 OB）

日時 2017年10月20日（金）16時～17時半
場所 東大柏図書館コンファレンスルーム
参加 留学生13名（中国6名、インド3名、韓国2名、
ドイツ1名、ブラジル1名）
書道指導 柏市書道協会 染谷副会長以下12名
主催 三井V-Net東大柏部会11名
共催 東大柏国際オフィス（KIO）



染谷副会長の説明を三澤会員が通訳

生憎の雨模様で参加者数が伸びないのではと心配でしたが、開始時間前から集まり始め、「楽しみにしていました」との言葉にほっとしました。

染谷書道協会副会長は、「漢字は篆書（てんしよ）、隷書（れいしよ）、草書、行書、楷書と長い年月をかけて変遷し、紀元600年から紀元900年頃の唐の時代に完成し現代に至っている」と日本書道についての歴史、伝統としての日本文化、筆の持ち方などの話をされました。この話を三井V-Net東大柏部会の三澤会員は分かり易く通訳をしました。

掲示された沢山の手本の中から、各参加者が好みの文字を選び練習開始。中には始めに字の縁取りをしてから中を墨で塗りつぶしていく参加者もいました。書道協会の先生方は個別に姿勢、筆の持ち方、運び方などを丁寧に指導。いくつかのポイントを指導され書くうちに、みるみるうちに元の字からは想像できないくらいに、漢字風に変化、進歩していきました。呑み込みが良く先生から「筋が良い」と言われた方もいました。

中国の方は、四文字さらには平仮名までと流石です。複数の文字に挑戦し高い完成度には驚きました。

私も小学生以来の筆を握ってみました。なかなか“とめ、跳ね、払い”など、かっこうがつかえません。初めて筆を握った外国人にとっては、思うように書けずにごんごんかもしかかったでしょう。しかし多くの方は、



12人の先生の指導に三井V-Net会員もお手伝い

「アーティスティックね!」と楽しんだ様子でした。

緊張感張り詰める中にも和気あいあいと、1時間半はあっという間に経ちました。私たち日本人にとっても書道の生活は疎くなっている今日ですが、外国人にとって今日の経験が日本文化への興味と理解が深まる一助になってくれれば有難いと思います。

書き上げた作品2点は、10月27～28日の東大オープンキャンパスで展示されました。来春には柏市内で開催される書道協会春季書展でも展示される予定です。

江戸東京博物館&日本橋見学

駒澤大学部会 白井信雄（三井住友銀行 OB）

2018年4月22日、駒澤部会では今年度最初のイベントとして、リニューアルされたばかりの江戸東京博物館（江戸博）&三井ゆかりの日本橋地区見学を実施。この4月に来日したばかりの学生を中心に12名の留学生と会員8名が参加。



江戸博、中村座の前で参加者一同

当日は、4月にも関わらず真夏日の予報も出るほどの日でしたが、ほぼ全員が定刻に駒沢大学駅に集合。残念ながら諸般の事情による急な欠席者も出たが、総勢19名予定通り出発。会員1名は日本橋で合流。

コースは、まず江戸博を見学し両国で昼食、その後日本橋地区へ移動して日本橋、三越、三井本館、日銀本館等を見学、最後は室町の福德神社を参拝するとい

うもの。

江戸博では、誉田事務局長より手配いただいた無料入館券を留学生のために利用。昨年は、江戸博での着着付け体験に参加。今年は、展示室もリニューアルされたことでもあり、ボランティアガイドさんに案内をお願いしじっくり見学することとした。米国からの留学生は、東アジア出身者に比べ日本語の理解度にばらつきがあるため、日本語のガイドさんに加え英語のガイドさんもお願いした。



熱心にガイドさんの説明を聞く留学生のみなさん

江戸博内の展示では、江戸城と町割り、町民の暮らしなどに留学生は興味を示し熱心にガイドさんの説明を聞き入っていた。また、体験コーナーでは火消しの纏を自分で担いだり、大名駕籠に座ってポーズを決めたりするなど思い思いに「江戸」を楽しんでいた。さらに、神田須田町の山車に中国の関羽侯が鎮座しているのを見つけた中国・台湾出身の留学生は、「なぜここに?」と驚きを隠せずしきりにカメラに収めていた。

歌舞伎小屋中村座の前で、予定外に「えどはく寄席」の新内（富士松延治太夫）の実演と三味線の紹介を聞くことができた。ただ、新内で江戸情緒を味わうには、来日間もない若い留学生には少し難しかったかもしれないが、7月に予定されている歌舞伎鑑賞につながる体験にはなったかと思う。

昼食は、両国駅隣接の両国江戸NOREN内の食堂でとる。留学生にとり一堂に会しての初めてのランチだったため、海鮮丼や刺身などを食べながらの会話も弾んだようだ。本イベントの目的の一つである学生間の交流促進にも貢献。

日本橋には、東京駅から徒歩で向かう。途中、呉服橋の交差点で「呉服橋」の表示を見つけた留学生から「川も見当たらないのに橋の表示、なぜ?」と質問あり。「元々江戸は水の都、東京へと発展する過程で川や堀は埋め立てられ道路に変わっていった」との会員の説明に一応うなづく留学生。日本橋に到着し、橋を覆う高速道路を見てどう思ったか。

石造りの現在の日本橋を渡り、三越と三井本館の間

の通り（旧駿河町）に到着。「今の姿からは想像できないが、北斎が浮世絵（富嶽三十六景）で描いたように当時駿河町からは富士山が見えていた」との会員の説明に怪訝そうな表情の学生。会員が示した江戸の景観再現図や江戸市街中心部と富士山の位置関係を示す地図などを見て、ようやく納得。新緑の木々の向こうにはビルしか見えないこの場所で、当時の越後屋の人々が百キロ先の富士山を毎日眺めていたかと思うと、留学生ならずとも感慨にふける。

日銀本店前では、本館建設までの歴史を説明した後、本館を上空から眺めると漢字の「円」に見えると、配布した資料で説明。すると学生はすぐに反応。ただ、建設当時は「円」ではなく旧漢字の「圓」を使用していたと補足すると、さすがに漢字文化圏出身者「あ〜そうか」と理解も早い。ここで三井本館をバックに全員で記念写真撮影。

最後は、室町の福德神社。ビルの谷間に佇む小さな神社。でも30度近い中をずっと歩いてきた我々には、福德の森を渡る風が心地よい。ここで、学生はお参りの作法を会員から伝授された後、やや神妙な面持ちで参拝。その後しばし休息。この間、見事「大吉」を引き当てた米国出身の女子学生、東アジア出身の学生たちに事の重大性を教えられようやく理解、笑みを浮かべる。世の東西を問わず、女子学生の関心はみな同じと改めて感じた。



日銀本館前、三井本館をバックに参加者一同

これで、江戸博と日本橋を見学するイベントは無事に終了、帰路につく。

今回のイベントで色々サポートしていただいた誉田事務局長はじめ事務局の皆さま、ありがとうございました。参加した留学生ならびに会員の皆さま、ご協力ありがとうございました。お陰さまで無事に終了できましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。

2018 年春／新留学生との顔合せ会

駒澤大学部会 畑中正彰（三井物産 OB）

毎年4月になると、駒澤大学へはアジア、アメリカ等から10名前後の交換留学生の方々が入学されます。留学期間は、基本1年間で、6か月の方もおられます。

毎年、国際センターでの新留学生（以下、留学生）へのオリエンテーションに合わせて、留学生への各種日本語試験の受験準備、日常の勉学・日常生活、日本文化・社会の理解等のサポートを行う当駒澤大学部会（以下、駒大部会）の紹介を行うべく顔合せ会を実施しています。

今年は、4月10日（火）14:00～16:00まで 駒大深沢キャンパスの教室で実施しました。

三井ボランティアからは駒大部会・会員14名と事務局から担当1名が出席したほか、昨年9月から研究員として中国から来られていて、駒大部会で交流中の鄭国全様も出席してくれました。

今年は午後からの開催となったので、まず深沢キャンパスの中庭で集合写真を撮りました。



第一部

世話人から歓迎の挨拶があり、その後今年からの試みとしてパワーポイントによる三井ボランティアの説明、交流の仕方、昨年の活動の説明を行いました。

スクリーン投影される説明文・写真等を見ながら、理解を深めてもらえたと思います。

その後、三井ボランティア出席会員が、各々自分の思いを込めて自己紹介し、リラックスした雰囲気の中、留学生の自己紹介に移りました。

留学生からは、「日本語の各種試験の受験希望」、「和服、茶道の体験希望」「歌舞伎、文楽鑑賞希望」等の他、「刀鍛冶に興味あり」等のユニークな話も出てきました。

自己紹介終了後、7月までの行事説明、特に4月22日江戸東京博物館見学他、5月26日鎌倉散策、7月15日の歌舞伎鑑賞の説明を行事幹事から行いました。



第二部

駒大部会の活動と留学生の希望をよりマッチングさせるため、毎年実施しているグループミーティングに移りました。グループは4つでテーマ毎にテーブルを配置して対応しました。

テーマは、「A：日本語能力試験、ビジネス日本語テストを受けたい」「B：授業の復習、レポート作成、日常会話の指導を希望」「C1：現代日本の社会、生活、文化を知りたい」「C2：日本の歴史、伝統文化、伝統芸能を知りたい」で、留学生は希望するテーブルで各テーマの担当会員と和気あいあいにミーティングを行いました。

他のテーマの話我希望する留学生のために20分でローテーションを促し、教室でのグループミーティングは終了しました。

留学生には交流申込書を確認のうえ、交流希望者は4月17日までに国際センターに提出するよう頼みました。交流希望が何人になるのか期待して待ちたいと思います。

湘南倶楽部 エリザベス・サンダース・ホームの園内清掃（2018年5月12日）

湘南倶楽部 世話人 石渡戸征治（三越伊勢丹OB）

エリザベス・サンダース・ホーム（略称ESH）の清掃も平成30年5月の清掃で86回目を迎えることができました。清掃活動はスタートして18年が経過しました。清掃活動



清掃前のミーティング

活動はスタートして18年が経過しました。第一回目の参加者は8名でしたが、現在は毎回40名前後の方が参



清掃前の体操

加されホームの子供たちとの触れ合いも楽しみながら汗を流しています。奇数月の第二土曜日の朝10時に大磯駅前にあるESH中庭の地域交流スペースに集合、「ミーティング」、「清掃前の体操」、「集合写真の撮影」、その後、園内の清掃箇所5カ所に分かれての清掃と子供たちの自転車修理等を行っています。

清掃で出る多くの草木等は、長きにわたり、相模原の旭商会様がボランティアで毎回車両を派遣、自社内で処分も行ってきています。また、最近では会員の高齢化が進む中、東芝エレベータ神奈川支社様の現役社員の皆様が参加してくれるお陰で、作業も大変スムーズに行われています。



垣根の清掃



自転車修理

桜の成長と将来子供と一緒に咲き誇る桜を眺めることが楽しみの一つになりそうです。

今回のニュースレターをご覧いただき、多くの皆様に湘南倶楽部に入会願ひ、ESH園内清掃に参加いただければと思います。なお、清掃終了後は毎回到ぎやかな昼食会も開催しております。



集合写真

今年ESHは創立70周年を迎えられるとのことで、我々湘南倶楽部も会員の寄付により、園内5カ所に桜の記念植樹ができればと準備を進めています。毎年、

祝：日本赤十字社医療センターで 会員が永年活動表彰授賞

本部事務局

平成30年3月9日（金）、日本赤十字社医療センターにて平成29年度ボランティア総会が開催され、永年にわたりボランティア活動をされている方々に久野木順一副院長（院長代理）より感謝状が贈呈され謝辞の挨拶がありました。日赤医療センター全体の授賞対象者は38名でした。（20年以上2名、15年以上9名、10年以上5名、5年以上22名）



尚、同医療センターの平成29年度ボランティア活動者数は402名（男性46名、女性356名）で前年度の355名（男性40名、女性315名）より増加したとのことです。

この度、三井V-Net活動会員4名が表彰を受けられました。（三井V-Net活動者数：14名）

20年以上活動表彰 金色有功章：飯野 義章様（写真左）、笹間 克彦様

15年以上活動表彰 銀色有効章：長尾 まり代様

5年以上活動表彰：能登 勝子様（写真右）

笹間様、長尾様は欠席。

授賞の皆さまは永きにわたり1階の総合案内付近で外来患者さんへの再来機の操作・診療科の案内・車椅子の補助・会計機の操作等のボランティアをされています。

表彰式終了後、場所を移し院内にて病院関係者とボランティア会員との懇親会があり。皆様和気あいあいと歓談されておりました。

ボランティアの皆様は来院の方や患者さんをはじめ病院関係者からも信頼されているとのことです。

今後の一層のご活躍を期待します。

日赤医療センターより永年活動（20年） 表彰を授賞して

医療ボランティア 飯野義章（三井物産 OB）

昨今二度の大病（心肺停止、膵臓癌切除）を乗り越え80歳を超えた現在でも、心身共に元気で居られる

のは、環境の良いボランティア活動の場を提供して下さっている日本赤十字社のお陰だと、感謝しています。

約22年前、三井ボランティア発足時、病院ボランティア・グループを立ち上げた一員で、紆余屈折の末やっと日赤・外来ボランティアにたどり着きました。

そこで、日赤の表彰制度で金色有効章（金色の盾）があることを知り、この金色の盾を目標に今日迄活動を続けて参りましたが、今後とも健康に留意しながらこの日赤ボランティアを続けたいと思います。

結果的にはボランティア活動は、老化・ほけ予防に役立つのみならず、自分の活動が少しでも社会に役立っていると思うと、日々の生活にメリハリが付き、またボランティア仲間との交流が心を豊かにしてくれました。

三井ボランティア発足当時、活動模索の会議中にメンバーの一人（国際交流）より私の地元、世田谷区二子玉川地区で発足したばかりの男性のみのボランティア団体（銀雄クラブ）を紹介され、地元でのボランティア活動を行うと同時に気さくな仲間が大勢でき、家族同士の付き合いをしています。

これらボランティア活動が町内で話題になったのか？民生委員・児童委員を拜命して、ご近所との付き合いが始まり、定年後の人生が一変しました。

現役時代はモーレッツ・サラリーマンで会社と自宅との往復のみの生活でしたが、ボランティア活動を通じて町内、地元、日赤等で仲間ができ、ボランティア仲間や町内の皆さんとの交流が人生を豊かにしてくれていると思っています。

民生委員時代には町内の孤独ご老人達より同じ身の上話を何度も何度も、繰り返し聞かされていましたが、この傾聴の経験を生かし日赤ボランティアでは患者さんの鬱憤の捌け口になれるように心がけています。

また、患者さんが少しでも明るい気分でお帰り願えるように心がけるのはボランティアの使命であると思います。

人生の喜びは自分が少しでも社会の役に立っていると思うことと、仲間との交流、他人より感謝されることで、金銭には代えがたいと思います。

今後とも体の許す限り、この日赤ボランティアを続けて行きたいと思います。

関西支部（大阪）

神戸大学女子留学生 ラウラ カリナ アラウホ カリトさん（エルサルバドル）と 一対一での日本語学習

荒木悦子（登録会員）

HAT神戸にあるWHO事務所に世界の国から派遣された職員やJICA関西支部へ研修に来ていた海外研修生に日本語を教えた講師仲間の河原章二様（現在三井V-Net会員）のご紹介で2017年秋、三井V-Netに入会させて頂きました。



2017年12月、早速神戸大学留学生との一対一交流のお話があり、5日午後、冷たい風の吹く六甲山の神戸大学国際教育総合センターへ留学生ラウラさんとのマッチングにまいりました。

彼女は2017年10月に来日し今年3月まで神戸大学、4月からは兵庫県加東市にある兵庫教育大学で教育学の勉強に励んでいます。ラウラさんはエルサルバドルでは5年間英語の教師として働いていたことや11才の娘が国で帰りを待っていることなどを話しました。

来日の目的は新しいことを勉強し、人間として成長したい、実際に日本の人々と触れ合い、二つの国の文化、習慣、社会の慣習等の違いを知りたいと思い、まず大学でしっかり日本語を学び、日本人と意思の疎通を図ることが私の目標だと言いました。

4ヶ月間の英語ベースでの日本語力向上を目指しての学習が始まりました。初回の学習場所は神戸国際交流センターでラウラさんが大学で習った日本語の復習や宿題をしました。2時間余りはすぐに経過しました。スペイン語で彼女に話しかけて来る人がいて彼女もけっこう居心地がよさそうでした。

ラウラさんは、毎日午前中は神戸大学で日本語の勉強、火曜日午後を除き午後から晩までアルバイト。貴重な火曜日午後ですからお互いに有意義な学習時間にしようとお話し合いました。

クリスマス、お正月とお互いに予定があり、1月の火曜日は2回学習。2月は上旬に私がインフルエンザB型に罹り、その後ラウラさんが全く同じように罹り、メー



ルのやりとりでの学習でした。

彼女の日常は大学、アルバイト、日曜日は教会へ、そして旅行と便利な神戸市内に住んでいる間にフルに留学生生活をエンジョイしている様子でした。

3月末に加東市へ移る準備があり、4月初めにIt is different but I like it! There are a lot of Sakuras in here!! And you are more than welcome anytime you want! のメールをくれました。

4ヶ月弱の短い期間でしたが日本語と英語の会話でラウラさんと楽しく充実した時間を過ごせましたことに厚く御礼申し上げます。

「同志社大学留学生一対一交流」に参加して

稲富信博（登録会員）

私は武田薬品工業で働いていましたが、退職後にやりがいのあるボランティア活動をネットで調べていて三



井V-Netを知りました。留学生との交流活動に応募し、登録してもらいました。ベトナムに旅行した時に若者達の希望に満ちた熱気を感じ、東南アジアの学生との交流を希望して2017年6月から活動を始めました。

私が交流することになった留学生は、ハノイ市出身のグエン・ゴック・タオさんです。タオさんは同志社大学で2011年に開設された、英語で授業を受けながら学位を取得できる国際教育インスティテュートの3年生です。将来は大学院に進み、国際機関で働きたいそうです。日本での生活費は、アルバイトをして自分で賄っている逞しい女子学生です。

同志社大学今出川キャンパス内のカフェで、毎回1時間半ほどの交流時間です。初回は私のハノイ旅行の感想などお互い話し易かったのですが、タオさんは日本語より英語の方が話し易そうなので、日本に住んでいて分からないことなどについて主に英語で話していました。彼女はハノイで日本語を習ってきており、ある程度の日常会話は出来ますが、助詞や敬語が特に難しいようです。しかし、日本にいる間に日本語が上手になりたいというので、テキストを使って中級程度の日本語を

教えています。いずれは日本語検定を受けたいというので、ネットで見つけた日本の歴史や習慣などに関する記事も読んだりして、理解を深めてもらえるようにしています。



会社を辞めると特に若い人と話す機会が無くなりますが、一対一交流を始めてから定期的に若い学生と会って話をする機会が出来て楽しいです。もうしばらく彼女との交流は続きますが、彼女の日本語が上達し、日本に関する理解をより深めてもらえるようにしていきたいと思っています。

大阪市立大学杉本キャンパスで留学生向け習字教室開催

関西支部事務局

大阪市立大学、短期研修プログラムで来学中のインドネシアスマトラ島のアンダラス大学の学生のために習字教室を以下の通り開催しました。

- ・日時 : 2017年10月19日(木) 14時から16時
- ・場所 : 大阪市立大学杉本キャンパス
グローバルビレッジ
- ・参加留学生 : 10名
- ・習字指導 : 毎日書道会「会員」 北岡瑞桐先生、
大林義典先生
- ・教室運営 : 大阪市立大学国際交流室4名、
三井V-Net会員10名



習字はもちろんのこと日本語学習の経験もないインドネシア人留学生のために、習字について英語で書かれた説明資料が配られ、習

字の北岡先生・大林先生により、留学生一人一人に筆の持ち方から、最終目標である2018年の干支「戌」をはがきを書くまで、指導していただきました。

北岡瑞桐先生特有の指導方法である個々の書き方を見極めた上、一人一人の個性にあったお手本が配られ、初めは恐る恐る筆を走らせていた留学生達ですが、先生方に添削していただくうちに、みるみる上達していき、大変な盛り上がりの中、全員無事に目標を達成することができました。

最後に、北岡先生、大林先生から心温まる講評をいただき、笑顔のうちに終了しました。

参加した留学生は、「各種プログラムの中でも習字教室は大変印象に残ったプログラムだった」旨のお話しをしていました。

「須磨海岸クリーンアップ活動に初めて参加して」

上田 章夫（三井不動産OB）

三井V-Netとの出会いは2016年、旧三井家下鴨別邸の一般公開の立ち上げ準備をしていたとき、ボランティアの助けを借りることになり、紹介されたのが最初でした。翌年2月に「砂の感触が新鮮」と話す上田さん登録しましたが、同11月に開催された大阪マラソンがデビューとなり、今回の2018年春の須磨海岸クリーンアップが2回目のボランティア参加でした。



須磨海岸クリーンアップ当日の4月22日は天候に恵まれ、浜辺は爽やかだろう、との期待をもって須磨海岸に着くと、気温は高く初夏を思わせるものでした。浜辺には熱心な参加者が既に集まっており、微笑ましいリクリエーションを兼ねた、よちよち歩きのお子さん連れの家族から私のような高齢者まで、幅広い年齢の方が大勢おられました。

昨年はもっと大勢の参加があったと関係の方から聞きましたが、初めて参加する自分にとっては大勢の参加者を見るだけで驚きです。大会関係者の説明後、クリーンアップが始まり、ごみ袋を片手に広々とした浜辺を歩きました。日ごろ体験しないサクサクと足裏に伝わる感触に何とも言えない新鮮さを感じつつ、いつの間にか無心でごみを拾っていました。



初めての参加のため自分で拾ったごみの量がどの程度か判断出来ません。想像していたほど多くは拾っていませんが、この日一日、とても有意義な体験でした。来年も機会があれば参加したいと思います。

私は通勤列車の車窓から須磨海岸を眺める機会が多く、春は潮干狩り、夏は海水浴、それ以外の時期は砂遊びする人、釣り人が静かな浜辺で思い思いに過ごしている風景を長年見てきました。今回参加したことで分かったのは、大切な自然の環境を守るには、このような地道な活動の支えが、今後必要だということです。

京大病院図書ボランティアでの活動

宇山 房男（登録会員）

2017年6月から京大病院で図書ボランティアの活動を始めました。

日々の活動は、図書コーナーのカウンター業務で、患者さんへの本の貸し出し処理、返却本の処理と書架への配架、書架等の整理などです。毎月ミーティングがあり、寄贈本の登録や、装備とって番号を付けたりして配架するための準備作業を行ったりしています。



日々の活動の他に年に2回イベントがあります。夏の七夕、冬のクリスマスで、図書コーナーでコンサートを行っています。

京大医学部音楽部の学生さんの演奏や、ボランティアの方に歌を歌っていただいたりします。コンサートの1か月前位から、七夕の時は「笹」と短冊を用意して、短冊に願い事を書いて「笹」に付けてもらいます。「笹」と短冊はイベントが終了後、

近くの神社で焚き上げてもらいます。クリスマスの時は、クリスマスツリーを置いて、図書コーナー全体に飾り付けをしたりします。コンサート当日はコーナーにピアノを準備し、観に来られる方のために椅子を配置します。毎回100名程度の方が観に来られます。病院スタッフの方がサンタクロースに扮して登場すると、子供たちが一緒に写真を撮ったりして大喜びです。



観に来られた方々には、しおりやクリスマスカードをお渡しするのですが、それらは全て手づくりで2か月位前から毎月のミーティングの際、皆さんでワイワイ言いながら作成しています。

ボランティアは女性の方が多いため皆さん簡単に作業をされていますが、不器用な私も一緒に頑張っ

旧三井家下鴨別邸でのボランティア活動

河野修一（三井物産OB）

2016年10月から、新規に当別邸の一般公開が始まるので、若干名のボランティアを募集しているとの情報を、三井V-Net関西支部から頂き、管理者である（財）京都市観光協会に応募・登録をして活動を始めました。私としては、これが初めてのボランティア活動で、毎週1回半日の活動を1年以上続けています。



活動内容は来館者の誘導、案内、展示物などの監視、及び喫茶運営のサポート等です。

当別邸の来館者には、明治・大正期に建てられた近代和風建築屋敷（平成23年に重要文化財に指定）が、一般公開されて内部がゆっくり観られるとして、一般の観光客に加え、大工さんや建築・木材関係者、建築専門の学生等がよく来られています。

また、窓越しに外の景色が少し歪んで見える大正ガラスが嵌め込んであるガラス障子を見て、子供の頃に実家にあったので懐かしいと、おっしゃられる方をよく見受けます。あまり多くはありませんが、外国人の方も来られるので、「三井財閥や三井グループ」のことを何か知っていますかと聞いてみると、ほとんどの人が知らないとの答えなので海外でも知名度が高いと思われるグループ会社数社の名前を挙げて三井グループのPRをしたりしています。

大阪マラソン、神戸マラソンに 団体ボランティアとして参加して

関西支部事務局



大阪マラソン給水準備風景

2007年に始まった東京マラソンをきっかけに広がった市民マラソンブーム。スポーツ文化を自分のものとして楽しむ「する」「みる」スポーツに加え、スポー

ツにおける「ボランティア」活動が新たにその意義・価値を認められるようになってきています。

三井V-Net関西支部では、「ランナーをサポートしたい!」「たくさんの方の力になりたい!」そんな熱い想いを持った方たちとともに、2013年から毎年大阪マラソン、神戸マラソンに団体ボランティアとして参加し活動しています。

【2017年11月26日（日）第7回大阪マラソン、ランナー：約3万2千人】

天気は快晴、絶好のマラソン日和となりました。私たち三井V-Net 28名は、昨年同様20kmという重要な地点での給水を担当しました。

9時半頃、車いすマラソンのランナーが美しい姿にて猛烈なスピードで目の前を走り抜けました。今回は



20km地点の最終テーブルでの給水なので、果たしてランナーが手にとってくれるだろうか等の不安もあり、紙コップの置き方に工夫を凝らし待っていると、日本人トップのランナーが給水してくれ「やった!」との思いで一杯でした。その後も「頑張ってください!」と声を枯らして応援しつつ、水を配りました。ランナーの多くは「ありがとう!」の一言を残して走り去りました。

【2017年11月19日(日) 第7回神戸マラソン、ランナー：約2万人】

早朝から小雨まじりの風の強い天候でしたが、私たち三井V-Net 12名は、スタートから4km地点の「三宮・兵庫ブロック



23区」で、一般通行者がコースへ進入することを阻止し、コース運営の安全を図る「自主走路員」を担当しました。

9時12分、早くも先頭集団が走り抜けました。「自主走路員」は、ランナー通過時は、歩道の観客の方を向かなければならないのですが、当日はスタート時着ていた雨合羽を脱ぐランナーの支援をしつつ、笑顔で応援もしていました。

両マラソンとも関西特有のお祭りのように賑やかで華やか、応援がすごいと言われています。沿道のボランティアと観衆の温かい声援が大会を支え自然と心が温かくなります。

中国支部（広島）

広島市社協 BIG FRONT ひろしま 健康福祉フェアについて

中国支部事務局

広島市総合福祉センターの福祉団体と同ビルテナントが連携して実施する掲題健康福祉フェアが3月10日に開催されました。今回は神楽・マジックショーなどのイベントもあり大人から子供まで多くの来場者がありましたが、その中で福祉コーナー(視覚

障がい体験コーナー)のボランティアに参加しました。来場者はスタンプラリー方式で色々なコーナーを回って歩きます。担当したコーナーでは来場者の方にまずは受付にてアイマスクで目隠ししてもらい3m先の部屋のテーブルの椅子まで誘導しました。カップに入った2種類のジュースを飲んでいただき何のジュースか当てていただくテーブルと目隠しのまま物を手で触ってもらい何かを当ててもらふ二つのテーブルで視覚障がい者の体験をしてもらうコーナーでした。まず3mをアイマスクして歩くだけでも怖さによる不安で前に進めない方やジュースの味もわからなくなる方も多くおられました。物を当てるコーナーではシャンプーとリンスの容器が用意されており、まずは何であるか判らない人もいましたが、同じような容器でありながら視覚障がい者に区別できるような容器にはキャップ部分に線が入っていることも今回初めて知りました。目の不自由な方の状況を体感し大変さを実感していただき、あらためて目が見えることのありがたさと目の不自由な方への気遣いと慈しみの気持ちを理解していただけたボランティアだと感じました。



広島市社協の防災セミナーに参加して

中国支部事務局

1月27日広島市総合福祉センター(BIG FRONT ひろしまビル)にて講師に防災アドバイザー・防災士の岡部梨恵子氏が招かれ、今後起こりうる巨大地震に備え防災セミナーが開催され、当支部から2名参加しました。想定される地震規模について首都直下型地震マグニチュード7.3、南海トラフM9.1を想定し死亡行方不明者、避難者数などの予想値の説明がありました。東日本大地震の経験より日頃から被災した時に陥りやすい心理状態を知り心構えをしておくことの大切さ(極限状態において生きること



どれだけ執着するかが生死の分かれ目になる。決してあきらめないこと)をアピールされました。また、災害に備え日頃から整理整頓をして必要な家族一週間分の水・食料・生活備蓄品のスペースをまず作る場所から心がけ、実際に備蓄品については使用してみてこのメーカーの物がどのように良かったと悪かったとの例が示され具体的な実物も提示され実際に触れてみて大変興味深く聴講できました。備蓄品も水・食料は日常生活の中でも少しずつ使用しながら順に新しいものを補填していく必要性について、また災害時温かいものを食べると人間関係においてのギスギス感が和らいだ経験から災害時の調理方法としてパッキングについてビデオ紹介され、一週間の献立表も紹介されました。いつ自分の身近に起こるかしない状況なのは、皆さん十分認識されており熱心にメモを取りながら聞き入っている姿が大多数でした。

事務局便り

退団ご挨拶

中国支部 佐々木邦晴（東芝OB）

このたび、3月末日をもって退団しました。会社生活においては、ほとんどボランティア活動をした経験がありませんでしたが、中国支部事務局に着任した平成23年12月から6年4か月間会員の皆様と一緒に色々なボランティア活動を自ら体験しました。国際交流では外国人との一対一のワンペア日本語支援とホームステイの受け入れ、福祉活動では広島市社協主催の毎年8月6日に開催される広島平和記念式典での車いす介助を初めとして、ひろしまフラワーフェスティバル、マーガレットコンサート、社会福祉団体の祭り、運動会などを通して身体障がい者とのふれあいなど、また広島市郷土資料館では年に一度のイベント一駄菓子づくり広場への参加、環境保全では広島平和公園の清掃活動を引継ぎ、12年目を迎え延べ3300人の活動人数となりました。NPO法人ひろしま人と樹の会主催の森林保全をベースとした植樹、森林の手入れ、そば教室、柿もぎ体験、炭焼きなど多様な行事に参加し、多く



の方との交流により新たな分野を経験することができました。これからも会員の一員として引き続き参加したいと思っています。在任中は多くの方のご支援ご協力をいただき感謝の気持ちでいっぱいです。誠にありがとうございました。

入団ご挨拶

中国支部 泉尾満久（日本ユニシスOB）

本年4月1日付にて、三井V-Net中国支部に入団いたしました。泉尾と申します。まだまだ、分からないことが多々ありますがよろしくお願いたします。



前任の佐々木支部長が築いてこられた活動、人との繋がりを絶やさぬよう活動を継続できるようにしていきたいと考えております。また、私なりに新たな活動、人との輪が広げられるようできればと思っております。

私の三井V-Net中国支部とのご縁は、中国支部で実施しているパソコン教室の講師を約8年前から務めさせていただいておりました。ボランティア活動という意味ではまだまだ未熟ですが会員の皆様のサポートができるよう微力ながら努めてまいりたいと考えております。よろしくお願いたします。



2017年度「三井V-Net」名義による ダルニー奨学金への支援報告

三井V-Netでは『書き損じなどによる未使用の日本郵政製はがき』や『未使用切手』を日ごろより収集し一年ごとにとりまとめて換金のうえ東南アジアの経済的に恵まれない家庭の子どもたちに基礎教育の機会を提供するための奨学金として役立てております。(使用済みインクカートリッジの収集は情勢の変化により取りやめました。)

2016年の1月から12月までに本部(東京)および関西支部(大阪)・中国支部(広島)の各事務局にお寄せいただいたご提供品は、公益財団法人『民際センター』にて展開している国際教育里親型支援「ダルニー奨学金※」に「三井V-Net」の名義にて2017年度分として活用させていただきました。おかげさまで例年とほぼ変わらずに7名ものタイの中学生の学費を援助でき、そのうち1名は2017年度をもって無事卒業を迎えました。

ご登録いただいているボランティア会員の皆様はじめ、会員会社の現役社員の皆様や三井V-Netのニュースレターやホームページをご覧いただきご協力くださった一般の多くの皆様にも奨学生に代わりましてあらためて深く感謝申し上げます。

引き続き皆様のご理解のもと、ご友人やお知り合いにもお声かけいただきまして心温まるご支援をお願い申し上げます。

※ダルニー奨学金に参加することにより支援する子どもの報告書(写真とプロフィール)が届き「顔が見える、成長が見守れる、一対一の教育支援」としてより身近に実感することができます(公益財団法人民際センター ホームページより)



皆様のご協力により2017年度に卒業したタイの男子中学生

物品ご提供による支援のお願い

三井V-Netでは下記の物品を随時収集しております。

ご提供いただいた品々は年末に一年分をとりまとめ協力団体を経て換金し東南アジア僻地の子供たちの中学就学のほか インド・インドネシアでの持続可能な農業や農村開発のプロジェクトへの支援金として役立てております。

支援金のもととなる物品につきましては ボランティア会員様に限らず広く一般の皆様からのご提供もたいへんありがたく お知り合いにもぜひお声掛けかけ願います。

ご協力を心よりお待ちしております。。

ご提供 いただきたい 物品

- 日本郵政製未使用(書き損じ含む)はがき
- 日本郵政製未使用切手(海外切手は不可)
- 使用済み切手(周囲を5mm程度残して切り取り、国内/海外 分別願います)
- プリペードカード(未使用のみ)



※使用済みインクカートリッジは情勢の変化により収集を取り止めました。これまでのご協力で感謝申し上げます。

ご提供品送付先

三井ボランティアネットワーク事業団の本部
もしくは各支部あて

- 本部(東京) 〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3F
TEL: 03-5570-2181 FAX: 03-5570-8035
- 関西支部(大阪) 〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル7F
TEL: 06-4396-8680 FAX: 06-4396-8681
- 中国支部(広島) 〒730-0017 広島市中区鉄砲町6-7 槌本ビル5F
TEL/FAX: 082-222-5101

三井ボランティアネットワーク事業団 (三井V-Net) 皆様もボランティア活動に参加しませんか

三井ボランティアネットワーク事業団は、三井グループ有志各社の協力を得て、1996年に設立されました。主として三井グループ企業出身のシニア層のボランティア活動を推進し、豊かで健康な生きがいを感じられるように支援を行い、以て三井グループ全体の社会貢献とすることを主たる目的としています。ボランティア活動会員登録には入会金および年会費等は不要です。

ボランティア活動会員登録票		(関東地域) 03-5570-8035	
		FAX (関西地域) 06-4396-8681	
		(中国地域) 082-222-5101	
三井ボランティアネットワーク事業団(三井V-Net) 御中 貴事業団を通じたボランティア活動への参加を申込みます。			
		記入日	西暦 年 月 日
氏名	(フリガナ)	生年月日	西暦 年 月 日
		性別	[]男 ・ []女
住所	郵便番号 -		
自宅電話番号	-	-	
自宅FAX番号	-	-	
携帯電話番号	-	-	
メールアドレス			
出身企業/勤務先			
以下の活動についてご希望される項目に○印を入れて下さい(複数可)			
希望する ボランティア	① [] 国際交流(留学生と日本語を通じての交流・文書作成の支援等)		
	② [] 環境保全(河川敷・海岸等の掃除、水源林地域保全活動)		
	③ [] 医療(病院外来の案内・図書整理・演奏活動等)		
	④ [] 福祉(福祉施設内の草刈・掃除、福祉団体主催イベントでの手伝い等)		
	⑤ [] 文化・教育(文化施設での手伝い、アジアの児童の奨学金支援)		
会員登録の動機について該当項目に○印を入れて下さい(複数可)			
[] 出身企業の紹介 [] ホームページを見て [] ニュースレターを見て			
[] 知人()の紹介 [] その他()			

上記入手の個人情報は、個人情報保護法の方針に従って厳重に管理し、ボランティア活動に必要な範囲内に限り使用させていただきます。

三井ボランティアネットワーク事業団

本部(東京) 〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3階
TEL:03-5570-2181 FAX:03-5570-8035

関西支部(大阪) 〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル7階
TEL:06-4396-8680 FAX:06-4396-8681

中国支部(広島) 〒730-0017 広島市中区鉄砲町6-7 槌本ビル5階
TEL:082-222-5101 FAX:082-222-5101

ホームページからも登録していただけます。 <http://www.mv-net.com/>